

1 日 時 平成22年9月27日（月）午後3時～5時

2 場 所 府中市生涯学習センター 1階会議室

3 出席者（敬称略）

（1）委員13名

加藤 佑子、西勝 義恵、澤井 幸子、設楽 厚子、芝 喜久子、白井 紀子、
鈴木 映子、寺谷 弘壬、野本 京子、平形 芳郎、比留間 一磨、三宅 昭、
山内 啓司

※坂本委員、奈良委員は欠席。

（2）職員4名

齋田文化スポーツ部長、澁谷生涯学習スポーツ課長、
山村生涯学習スポーツ課生涯学習推進担当副主幹、大木

※市ノ川企画係長は欠席。

4 連絡・報告事項

（1）配布資料の確認

（2）前回議事録の確認

（3）生涯学習ファシリテーター、サポーター養成講座について

（4）府中の森の文化まつりについて

（5）第5ブロック研修会（10/2開催）について

5 審議事項

（1）最終答申の内容検討について

以下のとおり意見交換が行われた。

[意見の趣旨] ■：委員 ➡：事務局

■ 前回は、フリートーキングで進めさせていただいた。高齢者世代の日常が話題に上った。また、地域の公会堂は本当は気軽に行ける場所でありたいが、気軽に行ける場所ではなくなり、貸し館になってしまっている、という話もあった。自治会の中には指導力がある人材が隠れていて、その方たちをどのように活用できるか、また、コミュニティービジネスやソーシャルビジネスについて、たくさんのご意見をいただいた。

今日は最終答申の内容検討についてご意見をいただきたいと思う。というのは、

前回もお話したと思うが、第5ブロック研修会や全国大会など、外に出る研修が多いので、10月は審議会がお休みになる。11月、12月は小委員会を発足して答申のまとめをしていただきたいと思います。

先ほど、ファシリテーター養成講座のお話があったが、その受けた方の受け皿というか活動する場がどういう形になればいいのかなど、聞かせていただけたらと思う。

- 最終答申の範囲はどこか。
- 中間答申、指定管理者についてと、この2、3ヶ月で審議してきた内容の全てをまとめたものになる。
- ➔ 中間答申はそのまま置いておいて、今年度の分の答申になるが、半分は指定管理者制度についてということにいただいているので、あとの半分を出していただくことになる。
- 中間答申が非常によくできているので、それを骨組みに使う、さらに肉付けしていくという形にすると良いものができるのではないかと。第2次府中市生涯学習推進計画に基づいてということもあると思うが、中間答申を骨組みにするというと思う。
- 中間答申に足していき、具体的な部分があれば、それをご意見いただきたいと思う。第2次府中市生涯学習推進計画の具体化に向けてという答申をしていかなければならない。
- ファシリテーターの意味がすごく強く感じられる。そこをどういうふうにするかは、継続して将来に向けて活動できるかというのが重要になってくると思う。やはり潜在能力を持っている人は地域にいっぱいいらっしゃるが、この指とまれという人がいないから、なかなか声を上げられないのが現状だと思う。世話好きおじいさんやおばあさんが少なくなっているから、こうなってしまう。そういう方がいれば、少しずつ手をつなぎあい各地に広めていくことが大事だと思う。
- もったいない人材が埋もれているかもしれない。
- ファシリテーターの講座をみんなで支えていければいいと思う。
- 第2次府中市生涯学習推進計画の中身というのは、中にある計画を推進するという意味で作られたのか。具体的な内容が乏しいので、例えば「学習機会の場を提供する」と書いてあってもどういう所でやるのか等、ここでは推し測れないので、具体的にやるとしたらそれをどういう所で推進していくのか等、分かりにくいところがある。府中市でいろいろな事をやっても人が集まらないという現実があり、府中市のみなさんは何を求めているのか。一方的に生涯学習ということで答申を出しているが、市民が何を求めているかというニーズに当たらないと、やっている人たち

は、せっかくいろいろな形でやっているのに、参加してくれない。その辺のところをどういうふうに尽くしていくのか。ネットワークを作るならどういうふうに網をかけるようにしてやるのかというところ、つまり施策、やり方をどういうふうにしていくのか。

府中市は恵まれてはいると思う。施設も恵まれているし、何かやるとなると、地区の施設があるのでそれぞれが満足はしているのに、答申を出すときに、何に対して満足がいけないのか疑問に思う。今のところから言うと、満足するまではいれないが、意思がある人は活躍しているのかなと思う。ただ一つだけ言うと、カルチャーセンターみたいなものは不足している。文化センターへ行っても、カルチャーセンターのようなことを既にやっている人以外は、やりたいと思ってもそういう講座がない。

- グリーンプラザではそういう傾向がある。ということは求めている方がいるということですよ。それを市として受け入れる催しものをすれば集まってくるかなと思う。

それとは別に質問があって、東京都でファシリテーターを組織化して、前に図式をもらったが、10月2日の第5ブロック研修会では武蔵野市が幹事市ということもあり、具体的なファシリテーターの話はでないと思う。なので、東京都に行って、きちんと勉強してきたいと思うが、そういう機会はないか。たぶん作った図式を組織化すると集まってきたり、付いてきたりする傾向があると思う。前にも見開きの作りましたよね。あれは参考に作ったと思うが、具体的な事例を伺いたい。せっかく府中市としてファシリテーターの養成講座を始めるので、もう少し身近に感じられるものがほしい。

- ➡ 前回報告したのが、東京都の事業で団塊の世代についての事例を集めてきたものだった。それ以外に、そういう事例研修等をやっている例があるかと思うので、また調べて近いうちにご案内します。

- 東京都の都議会の下に講堂で、私たち女性センターとして、直に受ける機会があった。社会教育の中では東京都が主催するものに行くというのはないですよ。東京都のブロックごとには参加しているが、これを取り入れたいという、根本的なファシリテーターのものを受けるには、東京都に行かないと無理かなと思う。私はそこに参加し、NHKチーフアナウンサーの村上氏の講演を聴いて感動して府中に持ち帰ってきた。女性フォーラムに村上氏をお迎えし、「おやじの底力」という講演をしていただいた。そのくらいに、受けたものを地域に活かしていくチャンスはあるので、何とかファシリテーターを勉強したい。

- 府中市がファシリテーターとサポーター養成講座をやるのは、本当にこれからな

ので、毎年この講座があるかはわからないが、一番最初が肝心だと思う。

■ その養成講座に応募された方は、それぞれの考えがあって応募したのだと思うが、そんなに集まったのは私としては意外だった。年代層、どういった知識を持っているのか、わかる程度で説明していただきたい。あと講座が1月で終わってからどう活用するのか。

➡ 応募者の年齢層など、今資料を持ってくるので少々お待ちいただきたい。それから2番目の質問だが、現在、明治大学の中心で動いていただいている小林教授と相談しているところで、府中市にどういう会があるかというのを最後の回にガイダンスしようと思っている。こういうところに行けば情報が得られるとか、こういう人に相談すればいいなどをお話しようかと相談している最中です。その中で、観光協会で多摩・武蔵野検定というのをやっているが、こういうようなことを案内して資格をとったら、観光ボランティアなどの位置もあるので、そういう紹介をしていこうと大学の教授と話しをしている。

■ 何か新しく起こすような勉強会ではないのですね。私はそう思って、従来の講座では起きないようなことがあると期待していた。

➡ どういう形にすればいいかというのは、来年、再来年とありますので、とりあえず最初は一般的な形の養成講座となっているが、来年もまたやっていくなかで、イメージと同じかどうかはわからないが、そういうグループやNPOに発展していけばいいかなと考えている。またそれは来年の話ですが。

➡ 今回、ファシリテーター、サポーター養成講座に応募していただいた方に関する情報ですが、応募するときに書いていただく事項として、年齢や資格などを書いてもらうように指示していなかったのが、現時点では把握できていない。

■ 広報で養成講座の記事をみたときに興味があったが、各講座に30人集まったということに嬉しく思う。なかなかこういうチャンスがないので、ここで勉強をしてそれぞれ変わっていくのは良い事だと思う。昔は子ども会が盛んで、その中でリーダーをやっていたりすることが多かったが、最近子ども会自体も少なくなったが、先輩を受け継ぐようなことも少なくなっているように感じる。私たちは子どもたちを集めて公園の掃除をしたり、体操をしたりしていたので、その時にお兄さんたちが外に出て活躍していたが、今は休みの日になるとのんびりしたり、部活に行ったりと自然と会が少なくなっている。継ぐ人がいなかった。

■ 家の近くは子どもがいない。少子化や高齢化もあると思う。

最終的にまとめるのは大変難しいと思う。時空をどこにおいたらいいのか分らないが、「学び返し」という言葉は、遊びも含め技術を持った人たちが、子どもたち、あるいは中年などいろいろな人に返していくことが「学び返し」だと思うが、

いわばスペシャリストですよ。なんらかのスペシャリストが返していくと、そういうことですよ。例えば、大太鼓ひとつとっても叩いたことない人は上手く叩くことができないので、技術を持った人が教えていくということが地域の活性化に繋がると思う。

このファシリテーターは最初の試みで、私も資格が取れるようにしたらどうかと提案したが、これはいわばジェネラリストですよ。私たちが目指しているのはどっちなのか。学び返しは組織や計算が下手だから、会場に募って一緒にやっっていくのに対して、片一方は組織化していく。両立すればいいがしないもの。ファシリテーターの重点を置くと反官制の主導者みたいになってしまう。受講される方にもよるが、一種のファシリテーターになったということになると、「学び返し」という言葉が落ちてしまうのではないかと少し不安に思う。なので、ファシリテーターと「学び返し」をどのように繋がるのか、最終答申に入れてもらいたいと思う。何もできない人がファシリテーターで組織化しても何も成さない。

- ファシリテーターとサポーターについて議論を聞いて考えていたが、サポーターは柔軟につけている知識など、「学び返し」はどちらかというとならサポーターに馴染むように思う。ファシリテーターというのが難しく、組織化を学ばせようとしているので、人と人を繋ぐとか何かを立ち上げるなどだと思うが、最後のところで難しいのが、どのように次に何かを実践に繋げていくのか。具体的な事業をやったり、自分たちで何かをやろうともっていくのか、何とかしていかないととても抽象的な形になるのかなと思う。たぶんそのあたりでご苦労なさっているし、いろいろお考えなんじゃないかなと思う。

ファシリテーターはある意味で、さまざまところで体験を積んできた方が何かを組織するとき、自分の持っている経験を活かすという意味では「学び返し」になるのかもしれないが、どちらかというとならサポーターの方に馴染むのかなと思う。そういう意味では「学び返し」に入るが、ファシリテーターは何かの技術というわけではないと思う。人と人を繋ぐもの。だから私もどういう人が応募されたのかに関心がある。

サポーターのほうはむしろ、自分はこういうのを持っているが、教えるのはなかなかという人のためのプレゼンテーション講座が入っていると思う。NPOボランティア団体、サークル、学校組織論というのが上の方に入っているの、そのあたりを意識しながら効果があるといいと思う。実際どういうものなのかに関心がある。

- ➡ 「学び返し」という言葉の意味にはいろいろな捉え方があって、一つは当審議会の第二期から言われている学んだことを誰かに返すということ。それが他の人や子どもたちなどいろいろな世代の人に返していくという意味もありますし、自分自身

が学んだことをもう一度学ぶという意味もあると思う。それから「返す」という意味をいわゆるお返しを地域への貢献という考え方もあると思う。地域貢献のために働くというか、返すという意味もあると思うので、その中身が学習だということです。そのように考えればファシリテーターはおっしゃっていただいたように、コーディネーターですし、ジェネラリストなので、どうしても素晴らしい人材がいればご紹介したいので、その人材をいろいろな人に紹介するために、イベントを催すとか、実際に優れた経験をどういうふうに話していいかわからない方がここでいうところのサポーターになるが、そういう人にプレゼンテーションの仕方とかを学んでもらって、できればファシリテーターとサポーターの組み合わせで、あるイベントが実現すればいいと思う。

というのは、第1期推進計画をやってきた反省として行政が場所をつくる、講師はどこからか連れてくるという形だったが、あまりにも多様化、複雑化してしまって、今はもうできないので、行政もそれだけの人件費などの経費をかけられない、専門家を連れてくるという事もこれ以上難しい。ということは、地域の中でたくさん人材がいらっしゃるわけなので、その人材を活かす人と活かされる人を作っていくということで、サポーターとファシリテーター制度を考えてきたという経由がある。

今までリーダーバンクという形でずっときたが、リーダーをやりたいという人がたくさんいてもそれを活かす人がいなかったなので、活かすためにどうしたらいいかということで、それを活かそうと思う気持ちのあるファシリテーターと、リーダー自身が一方的にしゃべるのではなく、しゃべり方やプレゼンテーションの仕方を学んでいただければ人も来るから、それでスペシャリストとジェネラリストの組み合わせのようなシステムを作るために企画した。

- どこまでを求めるかということもあると思う。
- 私の経験ですが、実は6小の放課後子ども教室のスタッフをしていて、週に2回くらい午後1時～5時までやっている。学童に入らない子どもたちが登録をしていて、だいたい小学1年生か2年生が参加している。始めに宿題をやって、それから自分たちの好きな遊びを友達としている。ときどき剣玉の先生が来たり英会話の教室をしたり、そういう輪を作る。実は今度の土曜日にイベントのひとつでユニホッケーという競技がある。室内用のホッケーで子どもも大人もできる。歴史がある競技だが、なかなか広がらない。メジャーである野球やサッカーの方がみんな楽しむ競技なので、よその子どもたちの中には、そういうのに入っていない子もいるので、そういう子を集めて、繋げてユニホッケー教室をやりたいと思っている。ユニホッケーをやっているところは第一小学校にあって、中央文化センター〇〇さんに相談

して、体験教室ができないかということで、その人はチームを作って子どもたちを指導している人で、その人を中心にして企画してもらい、今回1回目ですが、やっていくという企画をした。そういうふうに私自身は特別に要求をしてきたつもりはない。でも体を動かしておもしろいと感じるものがあれば、子どもたちも来るのではないかと思って、そういう機会を設けた。うまくいけば、年内とかに積み上げてやっていけば、みんなが参加できる新しいスポーツになると思う。チームを組んでやっている出会いの場にもなるので、「学び返し」ができるのではないか。白糸台体育館から道具を借りて5小でやる。わたしはこの会に参加しながら、放課後子ども教室の子どもたちに何か関わってやれることはないかと思って、この企画を試みた。

これは今みなさんが議論していたファシリテーターのひとつの側面になるのかなと思う。こういうことなら、私なんかやるのだから、他の人だって自分の興味のあることを企画して、どうですかと呼びかけられる。特に子どもの経験は狭いから、いろんなことがあるよと大人である我々が知らせていく、そういう機会を作っていく。そういうことがここでいう「学び返し」であり、ファシリテーターの役割をする人が増える。あまりきっちり決めないで、様々な形のファシリテーターがあってもいいと思う。幅広い捉え方の中でまずは実際に繋いでみる。そういうふうなことから動き出す形で、それが理論的な勉強の養成講座なのかなと思う。

- まさしくそれは人を繋げるファシリテーターになるのではないかなと思う。

(休憩)

- ○○委員から事例を報告していただいた。それに基づいて何かご意見があれば。先ほど、サポーター養成講座を支えていくのがこの審議会のひとつの力になれるのではないかというお話が頭に残っている。それがどのように支えていったらいいかなと思う。
- いつも思うが、自分はどう生きたいのかに関わってくるので、一概には言えないが、やはり自分が何かに関わって生きてきたので、もうちょっと増やして自分の好きなことを共有できる人達と楽しくやっていくにはどうしようか、単純な発想で十分だと思うが、言い出しっぺがいない、企画する人がいないので、行政も市民団体もちょっと企画力が弱いなというのが感じられて、先ほど委員さんからおっしゃったように、そういうところの力を支える勉強がしたいなと、返って私自身が思うところです。そういう人達は力を持っているだろうから、みなさんから吸収したいと思っている。それでもし自分でマスターできたら少しでも提供できるようになりた

いと思っている。身近な人なんか校長先生は、去年、一昨年あたりまでは地域、学校に根ざしてと始まっていたが、今年の運動会なんか見たら疑問がでてくるので、その年によって違うのかなと思っていた。あんまり堅くならないでやるとやり易いと思う。男の人は意外と声をかけられないと駄目ですよ。府中市の社会経験がある人たちに声をかけても断られている。その人は市外で活動しているので、府中市で活動してほしいと言っている。そういう男の人には声かけも必要だが、自分から前に進んでいくようにするにはどうしたらいいかなと思っている。

- 本能的に男性は後押ししないと駄目ですよ。
- きっかけづくりが大事ですね。
- 府中市で私が知っている大学教授で40人くらいいるが、その中の専門家で老人学、社会学を専門にしている方もいるが、多分これは若い先生ばかりだと思う。若い先生は経験がないので、中心になっている教授のコネで集めたのだと思うが、これこそファシリテーターの中心だが、教師のファシリテーターですね。この講座を審議会委員3人も聞いていただけるとのことで、「学び返し」とドッキングさせてもらうのが一番いい。

府中市で優秀な男性というのは府中市に自主的に属していない。いざ定年になって寂しいと思っても属さないと思う。それ以上に府中市というところは便がいいところで、鹿児島とか山奥だとまた違うと思う。府中市は現役のときで繋がってしまう。それが、残念だと思う。私も府中市にはずっと住んでいるが、東京にも事務所があるし、NPOの理事長もやっているが府中市のメンバーはいない。そういう意味では学び返しというか地元還元というのはチャンスがない。講演の依頼があったときはやっているが、それ以外がほとんどない。そういう人を引っ張り込むように、府中市でオーガナイズしたらいいと思う。府中市の大太鼓を知っている人をいれて、大学教授だけではなく、いろいろな人を入れていったら侃々諤々なるのではないか。こういう優秀な学生が行かれるので、教える方もたじたじになる。

こういうのは2年か3年熟さないといけない。ただ「学び返し」というのはせっかく何年も検討されたのに、中間答申でも2回くらいしか言葉がでてこないの、何回も使って府中市を印象付けた方がいいと思う。ファシリテーターは国とか地域自治体からとってくるのかわからないが、あまりこれに振られすぎるのも良くないと思う。

- 私は去年、熊本の全国大会に出していただいて、「学び返し」の府中市ですと宣言してきた。熊本の大学の先生が「学び返し」こそ、生涯学習だと紹介してもらいました。このことも頭に入れながら、ファシリテーターの育成をしていきたいと思う。

- 今度の第5ブロックの研修会にもでてくるとは思うが、すでに狛江市が「学び返し」を使って色々やってくれている。その言葉は少しずつ府中だけでなく、外に流れ出ていることは確かなことだと思う。
- 私は今度ファシリテーター講座を受けるが、これまでいろいろやってきたことが、学問的に先生方からみたらどういうふうに見えるのかが知りたい。そうしないと、せっかくやってきたことが、全然間違っていたということになると困るので、あまり深刻には考えないけども、世の中にはいろいろな考え方があるということだけでもいいと思うので、いままでやってきたことを検証してみたい。学問的に見たら先生方はどういうふうを考えているのか、ある程度わかってくれば、もっと楽しい時間が過せるのではないか。あまりファシリテーターをしようとおこがましいことは考えないで、そういうのを活かせれば私自身にとって非常に良いと思う。
- 先ほど〇〇委員の話聞いて、これがファシリテーターなのだという気がした。それで、ファシリテーターとしてコツコツと生まれたとしても、それを繋ぐ何かは将来的に必要なようになってくるのではないかと思う。もうひとつ、生涯学習というのは、いつでも、誰でも、どこでも、というのが原則ですが、今、子育て中のお母さんたちが、子どもを連れて行って学習する場がない。あるいは高齢者で外になかなか行けないという人たちのための在宅学習支援など。また障害者への在宅学習支援を含めたきめ細かい学習支援も、今までの様な対応をしてきているが、社会の変化に応じ、どの様なニーズが生じてきているか、どういった対応が望ましいのかも含め検討していく必要がある。

育児中の母親など学びのきっかけをつかみ、その方々が年を重ねていく中で生涯学習を身に付け、将来的に「学び返し」に繋がるのではないかと思う。

- 在宅学習の支援を試みたことはあるか。
- ➔ 第一次推進計画の中に、まさにいつでも、誰でも、どこでも、という考え方でしたので、当時はビデオの貸し出しをしていた。今でもやっているが、学習センターでやった講座の学習ビデオをこちらの方で制作して、ライブラリーを作って貸し出すという事業をずっとやってきていた。年間40本くらい貸し出しがあったが、最近減ってきている。というのは、もうビデオの時代ではなくなっている。やはりインターネットという時代になってきたので、在宅学習の支援については、今切り替わりの時期になってきているのかと思う。ビデオ制作そのものは昨年から予算の関係でやらなくなった。今ネットの方でやってもらうというのがあって、インターネット入門とか講座に取り入れるようになった。

障害者のための生涯学習については、企画係でやっている、あすなろ学級という知的障害者のための成人学級と学校五日制という特別支援学校の小中高校生を対

象に土曜日の午前中に地域活動などを行っている。そういう形の事業は今後も継続していこうと思う。

- 生涯学習センターとしてストレージを持って、そこにアーカイブで資料を見る、インターネットから取り寄せてという施策を考えているか。ただ物がないといけな
いので、設備として。おそらくソフト的には可能だと思うが、範囲としてそこに置
いていつでも見られるように、そういうことをやる方向の用意はあるか。予算がな
ければだめですよ。
- ➡ そうですね。あと色々議論がありまして、ひとつやっているのが、I ネットサロ
ンという形で、インターネットがいつでも見られるような端末が受付の横に置いて
ある。図書室や文化センター、地区図書館にもあるようです。あとはエルネットと
いう形でインターネット配信に変わってきている。また、ホームページで多摩ネッ
トワークなどは、ソフトオンデマンド方式でやっているところもある。色々な方法
がある。学習センターとしては、今ある施設に来ている方がどんな形の支援を求め
ているのかは、これから研究していく必要があると思う。インターネットの時代と
いうのも障害者の方がどれだけ利用できるのかということもあるし、その辺も相談
しながら研究していきたいと思っている。
- 私たちも要望として出していくのは良いことだと思う。そういう人たちと地域で
関わりのある人がいれば、その方たちがどんなものを求めているかというのは、私
たちが知ってここへ持ってくるというのが審議会委員の仕事だと思うので、よろし
くお願いしたい。
- 一生懸命映像資料を作っているが、一度でお蔵入りという事がよくあるので、府
中市のもので活用できるものであれば、使って欲しいというのがある。ハイビジョ
ン時代になってきているが、まだそれを設置していないということがあり、作品も
少なかった。やはり、府中市で一台もないというのがおかしいのではないか。ぜひ
平成の間に設置してほしい。よい作品や資料を各文化センターで利用してほしいと
いうのが私たちの希望です。私たちの最大イベントの文化祭でそれが実現できな
かったのが残念に思う。ルミエールには入っているのか。
- 入っているみたいです。
- 今、回っている本は何ですか。
- ➡ 観光経済課から提供された多摩・武蔵野検定に関する本と問題集で、以前にも審
議会の中で府中や多摩についてもっと知りたいというご意見があったので、参考資
料として回している。

(2) 小委員会の設置について

比留間副会長、西勝委員、寺谷委員、平形委員、山内委員に決定した。

第1回小委員会 11月16日(火) 午後2時～4時

生涯学習センター 1階会議室

6 その他

次回審議会開催日程について(10月は休会)

11月29日(月) 午後2時

府中市役所北庁舎3階 第2会議室